2017 年 8 月 16 日

SDJBA スピーチサマリー

OYC Americas Inc.　越智義文

今年から会員になりました越智と申します。日本で勤める会社の米国子会社の駐在員として昨年 7 月よりこちらサンディエゴに参りました。本日は 10 分間スピーチという事で勤務先の会社の概要を紹介をさせて頂きます。

会社は日本名でオリエンタル酵母工業(株)と言います。名前の通り酵母つまりイースト菌を作っています。会社概要と食品、バイオの製品について簡単にご紹介します。

親会社がありまして日清製粉という小麦粉の会社です。その日清製粉は 7 つの子会社を持っていましてオリエンタル酵母はその一つです。私の所属する OYC Americas は北米の販売子会社です。オリエンタル酵母自体はあまり消費者の皆様にはなじみのない会社ですが、日清製粉は小麦粉をはじめ唐揚げ粉やお好み焼き/たこ焼き粉、ママーブランドのパスタやパスタソース、出来合いのチルドパスタなどを販売していますので、日系のスーパーなどで目にされたことがあるかもしれません。

オリエンタル酵母のプロファイルです。1929 年に日本で初めてのパン用イースト製造会社として創業しました。社長は中川というもので、本社は東京の板橋区にあります。最寄り駅は都営三田線の志村坂上というところで、国道 16 号中山道沿いにありまして、あと二キロも北に行けば埼玉との県境である荒川の戸田橋にぶつかります。従業員は単体で 600 人あまり、工場が日本国内に 6 か所、営業所は 9 か所あります。日本からみた海外ですが、4 拠点それぞれアメリカ、オランダ、中国、インドにあります。商売は食品事業とバイオ事業の二つに分かれています。食品事業は主力のパン用イーストならびにベーカリー向けのパン品質改良剤や菓子パン用のフィリングなどです。バイオ事業では酵母から派生した微生物を使って生産する酵素や蛋白質を、医療やバイオの研究用試薬や素材として販売しています。また、医薬品の研究などで利用される実験動物のブリーディングや前臨床試験などを受託しています。

生産拠点ですが関東に 3 つ、関西に三つ工場と呼ばれる施設があります。赤で書かれているのが食品工場で、東京と大阪で生イーストを作っています。埼玉と琵琶工場は品質改良材やバタークリームなどのフィリングを作っています。青はバイオの工場で千葉で実験動物用の飼料、滋賀で酵素などのバイオ研究用の生化学試薬を作っています。

こちらは海外の 4 拠点ですがいずれも販売子会社で、日本で作った製品を現地で輸入販売しています。アメリカが約 20 年前、その他はここ 10 年の間で設立しています。2020 年には初めての海外イースト生産拠点をインドに作るという計画が先日公表されました。

食品の製品の一例を紹介します。主にパン用生イーストや発酵風味液、パン品質改良剤やベーキングパウダーといった紛体製品、バタークリームやマヨネーズなどの製パン用フィリング、総菜等の加工食品向けの日持ち向上剤、それに風味付けや健康食品素材などに用いられる酵母エキスなどに大別されます。その中でアメリカにも紹介をしている品質改良剤、ベーキングパウダー、カンスイについて次のページで簡単にご紹介します。

まず品質改良剤ですが、適用するパンの種類は食パン、菓子パン、サンドイッチやハンバーガー用のバン、フランスパン、冷凍のパン生地などです。主な機能は焼いたときのふくらみを良くしたり、弾力性を向上したりすることです。

次にベーキングパウダーです。一般に膨らし粉とも言います。ベーキングパウダーの膨剤としての働きは、水分がある状態で加熱されると化学反応をおこして炭酸ガスが発生します。このガスにより生地に気泡ができて膨化します。配合を変えることによって、速効型、遅効型など、目的に応じたものがつくられます。用途はご覧のようにパンやケーキ、中華まんなど様々なものがあります。

最後にかんすいです。聞きなれない名前かと思いますが、かんすいはラーメンや焼きそばなどの中華麺を作るのに欠かせない材料です。原材料は炭酸ナトリウム、炭酸カリウムなどの食品添加物として認められているアルカリ性物質で、これが小麦粉のタンパク質であるグルテンに作用して中華麺らしい腰や独特の色目を生むのです。分かり易く言うと、うどんと中華麺の違いと思ってください。どちらも同じ小麦粉が主原料ですがうどんにはかんすいが入ってませんが、中華麺には入っています。オリエンタル酵母はこのかんすいのシェアが日本一です。現在こちらでも日本食ブームに乗ってラーメン屋さんが増えていますので、製めんメーカー様向けの取引量が近年増えて参りました。

続きましてバイオの製品について紹介します。

突然ですがこれは何の表か分かりますか？健康診断の際に測る血液検査の結果です。私の二十代のころの検査結果です。この頃は各検査値が軒並み A 判定で健康体でした。ご存知のように定期健康診断や病気やケガなどで通院された際には血液や尿検査が行われます。これは日本のものですが、一般的なヘルスチェックアップの検査項目は概ね世界共通です。血液中に流れているこれら主に酵素や蛋白質の量を指標にして、基準値からどのくらい外れているかどうかで

その人の健康状態を診断します。これらの指標をマーカーと呼びますが、どのように測っているのかと言いますと、先ほどの表で肝機能マーカーの一つにあった GOT を例にあげます。これはアスパラギン酸トランスフェラーゼという酵素で体内でアミノ酸やエネルギー代謝の過程で重要な働きをします。通常は肝細胞に多く存在します。それが何らかの異常で肝細胞が破壊されることにより血液中に漏れ出します。これをこのような酵素反応を利用して測定します。この時に使う検査試薬の事を体外診断薬、英語では In Vitro Diaganostics と呼びます。

診断薬は通常このようなパッケージで専門の診断薬製造メーカーが作り、医薬品などを扱うディストリビュータを通じて各病院や検査センターに運ばれます。検査室では写真のような全自動分析機に診断薬をセットして、毎日各地から運ばれてくる血液・尿検体を臨床検査技師とよばれる専門家の管理の下で測定します。そしてその結果が病院の医師や、検査を請け負った組織を通じて皆さんの下に報告されるのです。

この体外診断薬と呼ばれる検査試薬の中身の原材料を弊社は作っています。先ほど例をお示しした GOT の測定にはいくつか酵素反応のステップがありましたが、そこで使用する酵素や補酵素を作っています。これらの材料はかつては主に動物の組織や臓器から抽出精製することが多かったのですが、最近では遺伝子改変技術によってイーストや大腸菌などの微生物から作ることが主流となっています。これら体外診断薬原料の製造販売は弊社のバイオ事業全体では一部門ですが、私が所属するアメリカの販社ではこれが主力の商売です。北米を中心とした体外診断薬を製造するメーカーにこれらの原材料を使ってもらえるよう、営業を技術面でサポートするのが私の役目です。

また、この他に弊社のバイオ事業では医療やヘルスケアの研究にかかせない実験動物の繁殖、供給を行っています。マウス・ラット、ウサギ、ビーグル犬、ミニブタなどを専用の施設でブリーディングし、医療研究機関や製薬企業などに販売しています。また、これらの動物や生体を使用した受託試験を展開しています。今後はサンディエゴのバイオや製薬企業を中心にこれらのビジネスを広げていきたいと考えています。以上です、ご清聴ありがとうございました。